



インフルエンザの流行がとても心配です。ご家庭でもご注意ください。

保護者自由参観にぜひお越しください

この度、本校の教育活動を保護者の方々にも広く知っていただき、学校と家庭・地域が協力・連携しながら子どもたちの学びを進めていくために、通常の授業参観に加え、自由参観日を設定いたします。

最初の参観日は、12月15日(金)です。参観時間は午前の部が9時から12時まで(およそ2～4時間目)。午後の部が13時20分～14時30分まで(およそ5時間目)。ぜひ、子どもたちの学びの姿を参観していただきますとともに、保護者の皆様方も子どもたちと一緒に学びに参画していただけたら幸いです。

子どもたちだけではなく、人はたくさんの「面」をもっていると思います。この機会に、おうちでは見られないような姿を見ていただくのも、この自由参観の趣旨の一つです。

ここで、「ジョハリの窓」といわれる下のマトリクス図をご覧ください。

☒ ジョハリの窓

		自分軸	
		自分はわかっている	自分はわかっていない
他者軸	他人にわかっている	I 開放の窓 「公開された自己」 (open self)	II 盲点の窓 「自分は気づいていないもの、他人からは見られている自己」(blind self)
	他人はわかっていない	III 秘密の窓 「隠された自己」 (hidden self)	IV 未知の窓 「誰からもまだ知られていない自己」 (unknown self)

第1象限は「解放の窓」と言われ「自分にも他人にもわかっている」自己です。「○○ちゃんって、明るいよね」「そう、私って明るいよ」と、私も周りの友達もそう認める部分です。

第2象限は「盲点の窓」。「自分にはわかっている」ものの「他人からはそう思われている」部分ですね。「○○ちゃんって、優しいよね」と言われても、自分では「えっ、そうかな、そうなのかな」と、ちょっとびっくりしちゃいます。

第3象限が「秘密の窓」。これは、「自分にしかわからない」もので、「他人は気づいていない(知らない)」隠された自己の部分です。「実は、私って…」と告白されると、他人はびっくりします。第2象限と第3象限は、びっくりする人が逆の位置にあります。

そして、第4象限が「未知の窓」。これは、自分も他人も知らない、言葉の通り未知の自己が隠されている部分です。

今回の自由参観日は、第2象限と第3象限の子どもたちを見てほしいなと思っています。特に、第2象限「自分は気づいていないものの、他者からは見られている自己」は、同学年(に近い)仲間や学校という家庭とは違う環境だからこそ、見えてくるものがあるのではないのでしょうか。私たちも、子どもたち一人一人の第2象限を見つけようと、日々奮闘しており、発見のたびに子どもたちの素敵な成長に出会えます。ただ、私たちも学級などの友達も、同じ環境にいるからこそ、案外見落としがちなどころがあるのも事実。ぜひ、おうちの方も一緒になって、そんな子どもたちの素敵な姿を見つけましょう。

そして、おうちに帰ってから、ぜひ、その姿を子どもたちに伝えていただき、ほめていただければ、とてもうれしいです。